



焼き芋、最高!

子どもたちが、美味しく食べる顔が見たくて、今年も新園舎の園庭で、20日(水)に焼き芋をしました。当日は、晴れてはいませんが、やや肌寒い朝でしたから焚火を炊いて焼き芋をするには、絶好の天気でした。



今年の火の担当は、年少担任です。焼き芋での火の担当の経験が少なかったことから、効率のよい焚火について調べていました。土台となる木の組み方、子どもたちが集めてきた枯れ枝や落ち葉、これらをどのように積みばよいのか、そして、芋を焚火の中に入れるタイミングなど、下調べに余念がありませんでした。また、去年の反省から、落ち葉を入れすぎると空気が中に入らず、酸素不足で燃えにくいということがあったので、落ち葉の量と入れるタイミングなどの作戦を立てていました。

当日は、子どもたちが五月雨に登園してきます。登園順に、子どもたちは、濡れた新聞紙で生芋を包み、更に外側にアルミホイルでくるむ作業をしました。そして、年少担任が、前もって火を起こしておいた焚火の中に、芋を偏りなく入れて、焼き上がりを待ちます。

初めて焚火を目にする年少さんは、焚火を取り囲み、暖を取りながら、珍しそうに見つめていました。また、2階の2歳児タンポポさんにも、焚火の様子を見せることができ幸いでした。

途中、落ち葉が足りなくなったので、年長さんが、急遽、坂道から大量の落ち葉を集めてきてくれたので、最後の仕上げに大助かりでした。家庭や街中で焚火ができなくなったので、焚火をする時、ほとんど歌われなくなった文部省唱歌「たきび」を口ずさみたくなります。

年少担任の下調べが功を奏し、出来上がりも順調で、1個、2個と次々に、焼き上がっていきました。

焼き芋を口にした子どもたちは、「美味しい、美味しい。」と言って食べていました。それもそのはず、今年



の芋は、あの甘〜い安納芋でした。小さな口を大きく開けて美味しく食べる年少さんの顔を見てください。いい顔してますねえ。

インフルエンザをシャットアウト

今年もインフルエンザの季節がやってきました。本園は、早々とシーズン前の9月に学級閉鎖をしましたが、関東の方では、今からインフルエンザが大流行するというニュースが流れてきました。原因の一つに、世界ラグビー大会が、日本で開催されたことが上げられています。世界各国から外国人が来日しましたが、その時に、インフルエンザ菌と一緒に持ち込まれた可能性が高いということでした。インフルエンザは、世界のどこかで毎日のように形を変えながら存在しているそうです。

各放送局は、インフルエンザに備えて、対策を放映しています。多くの保護者の皆さんはすでにご承知かと思いますが、放映された内容で、参考になったのをいくつか紹介します。

(例1) なぜマスクをするのか? 予防のためか、それとも、自分の菌を外に出さないためか?

答えは、後者だそうです。外からのウィルスは、マスクの網目の隙間よりももっと小さいので、簡単に口の中に侵入するため、予防という点ではほとんど役に立たないとか。それよりも、自分の咳やくしゃみで菌を飛ばさないということでは役に立つそうです。咳やくしゃみをする時、口に何も当てなければ、菌が、2m程飛ぶが、マスクをしていると、マスクの上方(頭の方)に少し飛ぶくらいで、かなりの菌の拡散を防ぐ効果があるということでした。

(例2) インフルエンザにはどんな飲み物が適切か?

お茶が適切だそうです。炭酸水やコーヒーは効き目が無いとか。お茶に含まれるカテキンが、菌を退治してくれるそうです。1日500cc(ml)飲めばよいということでした。ほかにも乳酸菌や卵酢などよいそうです。食べ物では納豆がよいそうです。

インフルエンザ予防の対策はほかにもたくさんあると思いますので、皆さん、インフルエンザの本格的な流行に備えて、できる限りの予防に努



寒さなんてへっちゃら
園庭を元気に走り回る
子どもたち